視覚障がい者スポーツの現状と今後の課題について　－アンケート結果より－

国立障害者リハビリテーションセンター病院

第二診療部眼科

林　知茂、西田　朋美

要約

【目的】現在の国内における視覚障がい者スポーツの実態を把握すること。

【対象と方法】日本障がい者スポーツ協会に加盟している21のスポーツ競技団体（以下、競技団体）、116の全国の障がい者スポーツセンター（以下、障スポセンター）、69の全国の盲学校（以下、盲学校）、100の視覚障がい者の通所が確認されている福祉施設（以下、施設）を対象に各関係機関別のアンケートを作成し、郵送による回答を求めた。アンケートの主な設問項目として、各関係機関のスポーツの種類、選手の数、練習頻度と回数、困っていること、眼科医へ望むことなどが含まれていた。

【結果】各関係機関の回答率は、競技団体57.1％、障スポセンター54.3％、盲学校75.3％、施設51.0％だった。競技団体からは、選手不足のみならず、組織運営・選手強化の両面からコーチ不足という回答が多かった。障スポセンターでは、全国的にサウンドテーブルテニス（以下、STT）や水泳が多く実施され、各地域で何らかの大会が開催されていた。利用動機としては、友人や家族からの紹介が半数を占め、眼科医からの紹介は皆無だった。盲学校では、STTが授業・クラブ活動ともにもっとも多く実施されたスポーツ種目だった。各校共通で、生徒数の減少がスポーツ活動に影響を及ぼしていた。施設でも、STTがもっとも多く実施されているスポーツ種目だった。約40％の施設で日課としてスポーツを取り入れていた。各関係機関に共通する問題点として、参加者・利用者・指導者・資金の不足、環境の改善を求める声が多かった。また、いずれの関係機関も眼科医療関係者との関係が希薄である傾向がうかがえた。

【結論】今後、視覚障がい者スポーツを発展させていくには、各関係機関に共通する問題点を少しでも解決していくことが必要になる。そのための対応策の一つとして、各関係機関同士の連携を強め、常に国内外レベルでの円滑な情報交換が行える確固たる体制構築が急務である。選手人材の確保という観点からも、眼科医療関係者全般に対する視覚障がい者スポーツの周知啓発が強く望まれる。

Ⅰ　緒言

スポーツは、人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎であり、活力に満ちた社会形成の上では欠かせない万国共通の文化である。そのレベルは、体力増進、健康づくりを目指すものから、各種国際大会を舞台に活躍するものまで幅広く存在する。

特に、国際レベルを目指す競技スポーツの場合、歴史的に視覚障がいに関しては国際視覚障がい者スポーツ連盟（International blind sports federation; IBSA）が国際的に取り仕切っていたが、近年、ようやく国際パラリンピック委員会（International paralympic committee; IPC）と歩み寄り、共同で各種事案を検討することが増えてきた。しかし、いまだに流動的な点が多く、得られる情報も英語のみであるため、国内の視覚障がい者スポーツ競技団体には情報が行き渡りにくい状況が続いていた。このような状況を鑑み、国内の視覚障がい者スポーツ競技団体は、競技団体間の連携、情報交換の重要性に着目し始めた。各競技団体に共通した問題として、選手や資金の不足、正確な情報の入手、眼科医療関係者との関係希薄、視覚障がい国際クラス分け基準の今後の動向などがこれまで話し合いの場で挙げられてきた。これらの問題を解決していくためには、国内の視覚障がい者スポーツの実態を把握することが大切であるが、これまで視覚障がい者スポーツ全般の実態に関する資料はほとんどなかった。さらに、障がい者スポーツに関しては、連携強化を重点的に今後の発展が期待されているが、昨年の2020年オリンピック・パラリンピック東京招致決定した直後に主管省庁が厚生労働省から文部科学省へ移管したばかりであり、連携が軌道に乗りきれるまで多少の時間が必要とされることが予測される。今後、視覚障がい者スポーツ全般を盛り立てていくには、視覚障がい者スポーツ関係者が一丸となり、多角的に連携をより強化していくことが求められる。

今回筆者らは、視覚障がい者スポーツの実態把握を目的に各関係機関を対象にアンケート調査を行った。結果をまとめるとともに、視覚障がい者スポーツに関する今後の課題を整理し、解決策について考察したので報告する。

Ⅱ　調査方法

日本障がい者スポーツ協会に加盟している視覚障がい者スポーツ競技団体（以下、競技団体；21団体）、全国の障がい者スポーツセンター（以下、障スポセンター；116センター）、全国の盲学校（以下、盲学校；69校）、視覚障がい者が通所している全国の福祉施設（以下、施設；100施設）に対し、平成25年9月18日にアンケート調査用紙を郵送し、11月8日を回答期限として郵便返送でアンケート回答を回収した。アンケートは、各事業形態に合わせて内容が異なるが、スポーツの種類、選手の数、困っていること、他競技団体や施設との連携、眼科医へ望むことなどを含め、各9～13項目から構成されていた。回答は、質問内容に応じて、多項目選択の単一回答方式、多項目選択の複数回答方式、自由回答方式とした。

**A.「視覚障がい者スポーツの現状と今後の課題について」**

**アンケート調査用紙(競技団体)**

**Q1.　貴団体について教えてください。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 競技団体名 |  | 記入者 |  |
| 記入者役職 |  | 電話/FAX番号 |  |
| E-mail Address | ＠ | | |

**Q2.　平成24年度の貴団体の登録数について教えてください。**

　　　団体（クラブ等）数　(　　　　　　　　)団体

　　　選手数　(　　　　　　　　)人　うち視覚障がい選手数 (　　　　　　　　)人

**Q3.　Q2でお答えいただいた人数のうち、平成24年度、競技スポーツとして参加されている視覚障がい**

**選手数を教えてください。**

　　　日本選手権等国内大会参加数　(　　　　　　　　)人

国際大会参加数　　　　　　　(　　　　　　　　)人

**Q4.　視覚障がい選手の貴団体への参加動機と思われることを教えてください。選手の参加動機として**

**多いと思われることから順位をつけてください(上位3つ)。**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 家族の紹介 |  | 友人の紹介 |  | インターネット |
|  | テレビをみて |  | 新聞等を見て |  | 眼科からの紹介 |
|  | 盲学校 |  | リハビリテーション施設で |  | 他の競技団体の紹介で |
|  | その他 |  | | | |

**※Q5～Q7は、視覚障がい者スポーツに限らず、全般についての質問です。**

**Q5.　貴団体のスポーツを振興させるうえで、充足しているものに○印をつけてください（複数回答可）。**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 団体事務所 |  | 団体職員 |  | 団体運営諸費用 |
|  | 強化事業費 |  | 海外遠征費 |  | スポンサーの確保 |

**Q6.　貴団体のスポーツを振興させるうえで、不足しているものは何か教えてください。(必要なものを5つ選び、必要性の高いものから順位をつけてください。)**

**Q6-1.　組織運営について不足しているもの(上位5つ)**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 競技用具の確保 |  | 強化拠点 |  | 医科学の支援体制 |
|  | 会員（選手）数 |  | TV放送 |  | 他のメディア報道 |
|  | 企業の選手雇用（競技中心） |  | 選手の日常練習の場所 |  | 専任コーチ |
|  | 強化スタッフ体制 |  | クラス分け体制 |  | ドーピング対応 |
|  | 審判体制 |  | 報奨金 |  |  |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | |

**前ページよりQ6続き**

**Q6-2.　選手強化について不足しているもの(上位5つ)**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | コーチの数 |  | コーチの資質 |  | 英語対応 |
|  | 協力医師 |  | トレーナー対応 |  | フィジカルトレーニング |
|  | 栄養士の協力 |  | メンタル強化 |  | 体力測定 |
|  | 映像分析（動作解析） |  | ゲーム分析 |  |  |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | |

**Q7.　他団体や他施設との連携について教えてください。**

　　　１．足りている　　２．不足している　　３．必要ない

|  |
| --- |
| フリーフリーコメント |
|  |
|  |

**Q8.　競技団体として、眼科医に望むものは何ですか(複数回答可)？**

　　　１．眼科的アドバイス　　２．視覚障がい者スポーツの知識　　３．クラスの把握

　　　４．視覚障がい者スポーツの広報　　５．大会で必要な診断書作成　　６．特になし

７．その他

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**Q9.　視覚障がい者スポーツの競技人口増加のためにしている工夫があれば教えてください。**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**Q10.　視覚障がい者スポーツが発展していくために必要と感じるものはなんですか？**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**Q11.　その他、全般的にフリーコメントがありましたら、ご自由にお書き下さい。**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**ご協力ありがとうございました。**

**B.「視覚障がい者スポーツの現状と今後の課題について」**

**アンケート調査用紙(スポーツセンター)**

**Q1．貴施設名を教えてください。（差し支えなければ、記入者名を教えてください。）**

|  |
| --- |
|  |

**記入者名（　　　　　　　　　　　　　　　　　）**

**Q2．可能でしたら連絡先メールアドレスを教えてください。（報告等のご案内をさしあげます）**

|  |
| --- |
| ＠ |

**Q3．昨年度、貴施設を利用した視覚障がい者の利用形態を教えて下さい（複数回答可）。**

　　　１．個人利用　２．団体利用　３．大会参加　４．教室参加　５．その他（　　　　　　　　　）

**Q4．昨年度、貴施設において視覚障がい者が行ったスポーツを、利用人数が多いと思われるものを以下の**

**中から5つ選び、1～5の順位を記入してください。**

**※あくまでもご記入いただいている方の主観で構いませんが、視覚障がい者の行ったスポーツと人数がわかる統計データ等があれば、**

**それに基づきご記入ください。**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 陸上競技 |  | ウォーキング |  | ジョギング |  | 水泳 |
|  | 5人制サッカー |  | サッカー |  | ゴールボール |  | ボウリング |
|  | グランドソフトボール |  | 柔道 |  | ゴルフ |  | テニス |
|  | クライミング |  | アルペンスキー |  | フロアバレーボール | | |
|  | サウンドテーブルテニス | | |  | クロスカントリースキー | | |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | |  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | |

**Q5. 昨年度、貴施設において視覚障がい者が対象に含まれる大会、教室などを開催された場合、その名称、**

**他の受講対象障がい、年間開催回数、参加者のうち視覚障がい者の参加数（年間のべ人数）を教えて下さい。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **大会名称、教室名称** | **視覚障がい以外の**  **受講対象障がいに**  **○印をつけて下さい** | **年間**  **開催**  **回数** | **参加者のうち**  **視覚障がい者の参加数**  **（年間のべ人数）** |
| 記入例：障がい者水泳教室 | 肢体・知的・精神 | 3回 | 10人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |
|  | 肢体・知的・精神 | 回 | 人 |

**Q6.教室参加など、貴施設を通じて知り合った仲間同士でつくるような貴施設が公認している視覚障がい者を**

**含むクラブがあれば、クラブ名称、スポーツ名、クラブ人数、そのうちの視覚障がい者数を教えて下さい。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **クラブ名称** | **スポーツ名** | **クラブ人数** | **クラブ人数のうち視覚障がい者数** |
| 記入例：○○クラブ | フロアバレーボール | 12人 | 10人 |
|  |  | 人 | 人 |
|  |  | 人 | 人 |
|  |  | 人 | 人 |
|  |  | 人 | 人 |
|  |  | 人 | 人 |

**Q7. 視覚障がい者の貴施設への利用動機として多いと思われるものを3つ選び、1～3の順位を記入してくだ**

**さい。**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 家族の紹介 |  | 友人の紹介 |  | インターネット |
|  | テレビをみて |  | 新聞等を見て |  | 眼科からの紹介 |
|  | 盲学校の紹介 |  | リハビリテーション施設の紹介 |  | |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | |

**Q8. 障がい者スポーツセンターとして、眼科医に望むものを教えてください（複数回答可）。**

１．眼科的アドバイス　　２．視覚障がい者スポーツの知識　　３．クラスの把握

４．視覚障がい者スポーツの広報　　５．大会で必要な診断書作成　　６．特になし

７．その他

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**Q9. 視覚障がいの利用者より、貴施設利用にあたり、いただいたご意見などがあれば教えてください。**

　　　　**(要望、意見、苦情、感謝等、箇条書きで構いません)**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

**Q10. 視覚障がい者スポーツが発展していくために必要と感じるものはなんですか？**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

**Q11. その他、全般的にコメントがありましたら、ご自由にお書き下さい。**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

**ご協力ありがとうございました。**

**C.「視覚障がい者のスポーツの現状と今後の課題について」**

**アンケート調査用紙(盲学校・特別支援学校)**

**Q1.　貴学校名を教えてください。**

|  |
| --- |
|  |

**Q2.　可能であれば連絡先メールアドレスを教えてください。（報告等のご案内をさしあげます）**

|  |
| --- |
| ＠ |

**Q3.　貴校の体育の授業で実施しているスポーツを教えてください。**

**(該当するスポーツに○印をつけてください･複数回答可)**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 陸上競技 |  | ウォーキング |  | ジョギング |  | 水泳 |
|  | 5人制サッカー |  | サッカー |  | ゴールボール |  | ボウリング |
|  | グランドソフトボール |  | 柔道 |  | ゴルフ |  | テニス |
|  | クライミング |  | アルペンスキー |  | フロアバレーボール | | |
|  | サウンドテーブルテニス | | |  | クロスカントリースキー | | |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | | |

**Q4.　貴校の体育の授業で実施しているスポーツとその頻度を教えてください。**

　　1）中学校

　　　{例　１年生５０分の授業を１週間に２回（主なスポーツ　サウンドテーブルテニス、水泳　）}

①　１年生（　　）分の授業を１週間に（　）回（主なスポーツ　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②　２年生（　　）分の授業を１週間に（　）回（主なスポーツ　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③　３年生（　　）分の授業を１週間に（　）回（主なスポーツ　　　　　　　　　　　　　　　　　）

　　2）高等学校

　　　{例　２年生５０分の授業を１週間に３回（主なスポーツ　ゴールボール、陸上競技）}

①　１年生　（　　）分の授業を１週間に（　）回（主なスポーツ　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②　２年生　（　　）分の授業を１週間に（　）回（主なスポーツ　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③　３年生　（　　）分の授業を１週間に（　）回（主なスポーツ　　　　　　　　　　　　　　　　　）

**Q5.　貴校のクラブ活動で実施しているスポーツを教えてください。**

**(該当するスポーツに○印をつけてください･複数回答可)**

1）中学校

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 陸上競技 |  | ウォーキング |  | ジョギング |  | 水泳 |
|  | 5人制サッカー |  | サッカー |  | ゴールボール |  | ボウリング |
|  | グランドソフトボール |  | 柔道 |  | ゴルフ |  | テニス |
|  | クライミング |  | アルペンスキー |  | フロアバレーボール | | |
|  | サウンドテーブルテニス | | |  | クロスカントリースキー | | |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | | |

2）高等学校

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 陸上競技 |  | ウォーキング |  | ジョギング |  | 水泳 |
|  | 5人制サッカー |  | サッカー |  | ゴールボール |  | ボウリング |
|  | グランドソフトボール |  | 柔道 |  | ゴルフ |  | テニス |
|  | クライミング |  | アルペンスキー |  | フロアバレーボール | | |
|  | サウンドテーブルテニス | | |  | クロスカントリースキー | | |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | | |

**Q6.　クラブ活動を具体的に教えてください。**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| クラブ名 | 活動頻度 | １回の  活動時間 | 生徒数 | 活動場所  （下記から番号で選択） | 目標とする大会  （下記から番号で選択） |
| （例）陸上競技（中学校） | 週３日 | 約２時間 | ５人 | １．６．(河川敷） | ２．３．４．６ |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

**クラブの活動場所 (複数回答可)。**

　　１．学校施設　　　　　　　　２．公共のスポーツ施設　　３．民間のスポーツ施設

　　４．障害者スポーツセンター　５．公園等　　　　　　　　６.その他（　　　）

　　フリーコメント(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

**競技スポーツとして活動されている場合、目標とする大会を教えてください(複数回答可)。**

　　１．パラリンピック　　　　　　２．各スポーツの国際大会（世界選手権大会など）

３．全国障害者スポーツ大会　　４．各スポーツの全国大会

　　５．地域の大会　　　　　　　　６.　学校との交流大会

７.その他の大会（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

**Q7. 体育の授業を実施するうえで、下記内容について問題点などがあれば教えてください。**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 問題点など |
| （例）１　生徒 | 視覚以外の障がいも重複するために、実施できるスポーツが限定される。 |
| （例）４．時間 | 選手に対する教員が少なく、準備等で時間がかかり、授業で十分な時間が取れない。 |
| １．生徒（選手） |  |
| ２．教員（指導者） |  |
| ３．スポーツ施設 |  |
| ４．時間 |  |
| ５．資金 |  |
| ６．関連情報 |  |
| その他  （　　　　　　　　） |  |
|  |

**Q8. クラブ活動を実施するうえで、下記内容について問題点などがあれば教えてください。**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 問題点など |
| （例）１　生徒 | パラリンピック競技を取り入れたいが、参加できる生徒が少なく、実施できるスポーツが限定される。 |
| （例）３．スポーツ施設 | 体育館で実施するスポーツが多く、１週間に２回しか実施できない。学校以外の施設は、近くに存在しないために活動できない。 |
| １．生徒（選手） |  |
| ２．教員（指導者） |  |
| ３．スポーツ施設 |  |
| ４．時間 |  |
| ５．資金 |  |
| ６．関連情報 |  |
| その他  （　　　　　　　　） |  |
|  |

**Q9.　他団体や他施設との連携について教えてください。**

　　　１．足りている　　２．不足している　　３．必要ない

|  |
| --- |
| フリーコメント |
|  |
|  |

**Q10.　学校として、眼科医に望むものは何ですか？(複数回答可)**

　　　１．眼科的アドバイス　　２．視覚障がい者スポーツの知識　　３．クラスの把握

　　　４．視覚障がい者スポーツの広報　　５．大会で必要な診断書作成　　６．特になし

|  |
| --- |
| ７．その他 |
|  |
|  |

**Q11.　視覚障がい者スポーツの競技人口増加のためにしている工夫があれば教えてください。**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**Q12.　視覚障がい者スポーツが発展していくために必要と感じるものはなんですか？**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**Q13.　その他、全般的にコメントがありましたら、ご自由にお書き下さい。**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |

**ご協力ありがとうございました。**

**D.「視覚障がい者スポーツの現状と今後の課題について」**

**アンケート調査用紙(施設)**

**Q1．貴施設名を教えてください**

|  |
| --- |
|  |

**Q2．可能でしたら連絡先メールアドレスを教えてください。（報告等のご案内をさしあげます）**

|  |
| --- |
| ＠ |

**Q3．日課の中で取り組んでいるスポーツプログラムはありますか？**

　　　１．ある　　２．ない

**Q4．Q3で、「１.ある」と答えた方への質問です。**

**Q4-1．そのスポーツの種類を教えて下さい(複数回答可)。**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 陸上競技 |  | ウォーキング |  | ジョギング |  | 水泳 |
|  | 5人制サッカー |  | サッカー |  | ゴールボール |  | ボウリング |
|  | グランドソフトボール |  | 柔道 |  | ゴルフ |  | テニス |
|  | クライミング |  | アルペンスキー |  | フロアバレーボール | | |
|  | サウンドテーブルテニス | | |  | クロスカントリースキー | | |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | | |

**Q4-2．そのスポーツプログラムを具体的に教えてください。**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 活動頻度 | １回の  活動時間 | 参加  人数 | 活動場所  （下記から番号で選択） | スポーツ実施の目的  （下記から番号で選択） |
| （例）陸上競技 | 週３日 | 約２時間 | ５人 | １．６．(河川敷） | ５ |
| （例）サウンドテーブルテニス | 月２回 | 約２時間 | １０人 | １（体育館） | １ |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

**そのスポーツの活動場所を教えてください。 (複数回答可)**

　１．施設内　２．公共のスポーツ施設　３．民間のスポーツ施設　４．障害者スポーツセンター

　５．学校開放等の利用　　６．公園等　　７.その他（　　　　　　　　　　　　　）

**そのスポーツの目的を教えてください。(複数回答可)**

１．健康の維持･増進　　２．体力の維持･向上　　３．気分転換　　４．交流･仲間づくり　５．娯楽

６．大会参加のため　　７．競技スポーツとして　　８．その他(　　　　　　　　　　　)

**Q5．日課後に活動しているスポーツクラブ活動はありますか。**

　　　１．ある　　２．ない

**Q6．Q5で「１.ある」と答えた方への質問です。**

**Q6-1．そのスポーツの種類を教えて下さい(複数回答可)。**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 陸上競技 |  | ウォーキング |  | ジョギング |  | 水泳 |
|  | 5人制サッカー |  | サッカー |  | ゴールボール |  | ボウリング |
|  | グランドソフトボール |  | 柔道 |  | ゴルフ |  | テニス |
|  | クライミング |  | アルペンスキー |  | フロアバレーボール | | |
|  | サウンドテーブルテニス | | |  | クロスカントリースキー | | |
|  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | | |

**Q6-2．そのクラブ活動を具体的に教えてください。**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | １週間の  活動日数 | １回の  活動時間 | 参加  人数 | 活動場所  （下記から番号で選択） | クラブ活動の目的　　（下記から番号で選択） |
| （例）陸上競技 | ３日 | 約２時間 | ５人 | １．６．(河川敷） | ２.　５. |
| （例）サウンドテーブルテニス | 月２回 | 約２時間 | １０人 | １（体育館） | １.　４. |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

**そのクラブの活動場所を教えてください。 (複数回答可)**

　１．施設内　２．公共のスポーツ施設　３．民間のスポーツ施設　４．障害者スポーツセンター

　５．学校開放等の利用　　６．公園等　　７.その他（　　　　　　　　　　　　　）

**そのクラブ活動の目的を教えてください。(複数回答可)**

１．健康の維持･増進　　２．体力の維持･向上　　３．気分転換　　４．交流･仲間づくり

５．娯楽　　６．大会参加のため　　７．競技スポーツとして

８．その他(　　　　　　　　　　　)

**Q7．Q4-2及びQ6-2で「競技スポーツとして」を目的と回答しているスポーツについて目標とする**

**大会を教えてください。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日課で実施しているスポーツプログラム | | クラブ活動 | |
| スポーツ名 | 目標とする大会  （下記から番号で選択） | スポーツ名 | 目標とする大会  （下記から番号で選択） |
| （例）サウンドテーブルテニス | ３．４．６ | （例）ゴールボール | １．２．４ |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

目標とする大会を教えてください(複数回答可)。

　１．パラリンピック　　　２．各スポーツの国際大会（世界選手権大会など）

３．全国障害者スポーツ大会　　　４．各スポーツの全国大会　　　５．地域の大会

６.施設（学校）との交流大会　　７.その他の大会（　　　　　　　　　　　　）

**Q8. スポーツ活動を実施するうえで、下記内容について問題点などがあれば教えてください。**

|  |  |
| --- | --- |
|  | 問題点など |
| （例）１. 参加者 | パラリンピック競技を取り入れたいが、参加できる生徒が少なく、実施できるスポーツが限定される。 |
| （例）３. スポーツ施設 | 体育館で実施するスポーツが多く、１週間に２回しか実施できない。施設以外の施設は、近くに存在しないために活動できない。 |
| １．参加者（選手） |  |
| ２．職員（指導者） |  |
| ３．スポーツ施設 |  |
| ４．時間 |  |
| ５．資金 |  |
| ６．関連情報 |  |
| その他（　　　　　　） |  |
|  |

**Q9.　その他、全般的にコメントがありましたら、ご自由にお書き下さい。**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |
|  |

**ご協力ありがとうございました。**

Ⅲ　結果

(1)　競技団体

21団体中12団体（57.1％）から回答が得られた。各競技団体に登録している団体（クラブ等）数については、未回答の競技団体が5団体含まれるが、1から68と幅が広かった（表1）。全登録選手数および全登録選手数のうちに占める視覚障がい者選手数と割合については、100％視覚障がい者選手の競技団体が4団体あり、もっとも少ない競技団体では視覚障がい者選手が1名のみ登録されていた。

表1：平成24年度選手登録数（A-Q2）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 競技団体 | 参加団体（クラブ等）数 | 全登録選手数（人） | 全登録選手数内の　　視覚障がい者選手数（人） | 全登録選手数内の　　視覚障がい者選手割合（％） |
| A | 未回答 | 700 | 700 | 100 |
| B | 20 | 420 | 420 | 100 |
| C | 1 | 200 | 200 | 100 |
| D | 10 | 100 | 100 | 100 |
| E | 68 | 601 | 71 | 11.8 |
| F | 18 | 123 | 60 | 48.8 |
| G | 1 | 91 | 54 | 59.3 |
| H | 未回答 | 80 | 20 | 25.0 |
| I | 未回答 | 42 | 6 | 14.3 |
| J | 未回答 | 50 | 4 | 8.0 |
| K | 未回答 | 50 | 4 | 8.0 |
| L | 27 | 140 | 1 | 0.7 |

また、これら視覚障がい者選手のうち、平成24年度に競技スポーツとして参加した選手数では、未回答の競技団体も含まれるが、回答が得られた競技団体ではすべて国内大会のほうが国際大会よりも参加人数が多かった（表2）。

表2：平成24年度に競技スポーツとして参加している視覚障がい者選手数（A-Q3）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 競技団体 | 国内大会（人） | 国際大会（人） |
| A | 60 | 17 |
| B | 未回答 | 12 |
| C | 50 | 15 |
| D | 50 | 8 |
| E | 71 | 8 |
| F | 153 | 41 |
| G | 35 | 2 |
| H | 10 | 2 |
| I | 未回答 | 1 |
| J | 2 | 2 |
| K | 4 | 0 |
| L | 1 | 0 |

視覚障がい選手の各競技団体への参加動機について、該当する選択肢を上位3つまで選択回答してもらった。上位3つを1位3点、2位2点、3位1点に換算し、高得点の順に選択肢を並べたところ、「友人の紹介」、「盲学校」、「家族」の順に多かった（図1）。眼科医がきっかけになっている選手は皆無だった。

図1：視覚障がい選手の競技団体への参加動機（A-Q4）

※　その他…「本人がその競技をやりたい気持ちが動機」というフリーコメントあり。

視覚障がい者スポーツに限らず、各競技団体のスポーツを振興させるうえで充足しているものについては、「団体事務所」、「強化事業費」、「海外遠征費」が上位3つを占めた。その一方、「すべて不足している」というフリーコメントもみられた（表3）。

表3：スポーツ振興において充足しているもの（複数回答可）（A-Q5）

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 回答数 |
| 団体事務所 | 4 |
| 強化事業費 | 3 |
| 海外遠征費 | 3 |
| 団体職員 | 1 |
| 運営諸費用 | 1 |
| スポンサー | 1 |

* 「すべて不足している」というフリーコメントあり。

視覚障がい者スポーツに限らず、各競技団体のスポーツを振興させる上で不足しているものについて、該当する選択肢を上位5つまで必要性が高い順に選択回答してもらった。上位5つを1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点に換算し、高得点の順に選択肢を並べたところ、「会員（選手）数」、「専任コーチ」、「選手の日常の練習の場所」、「強化スタッフ体制」、「競技用具の確保」の順に多かった（図2）。

図2：.組織運営について不足しているもの（A-Q6-1）

※　その他…活動資金、専従職員、日常練習時の伴走者

視覚障がい者スポーツに限らず、選手強化について不足しているものについて、該当する選択肢を上位5つまで必要性が高い順に選択回答してもらった。上位5つを1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点に換算し、高得点の順に選択肢を並べたところ、「コーチの数」、「英語対応」、「コーチの資質」、「トレーナー対応」が上位4つを占め、「メンタル強化」と「映像分析（動作解析）」が同点で5位だった（図3）。

図3：選手強化について不足しているもの（A-Q6-2）

※　その他…資金、スタッフの費やせる時間、用具や装具、伴走者

他団体や他施設との連携については、「不足している」が50％で半数を占め、「足りている」と「必要ない」が各々25％で同率だった（図3）。

図3：連携について（A-Q7）

※　「足りている」のフリーコメント

* + 健常者競技団体と連携が取れている。
* 「不足している」のフリーコメント
  + 他の競技団体と選手の交流ができたらよい。
  + 合宿・遠征時に、選手やスタッフの所属団体の連携。
  + 理解（参加することへの理解）が不足している。
* 「必要ない」のフリーコメント
  + 選手が少なく、連携施設での練習で問題ない。
  + 健常者と練習が出来ていて、現状では特に必要ない。

競技団体として眼科医に望むものについては、「視覚障がい者スポーツの広報」と「大会で必要な診断書作成」が同数でもっとも多い回答だった（図4）。以降、「視覚障がい者スポーツの知識」、「クラスの把握」、「眼科的アドバイス」の順に回答が多かった。

図4：眼科医に望むもの（複数回答可）（A-Q8）

　※フリーコメント

* + 選手の発掘に手助けして欲しい。
  + 病院レベルで視覚障がい者スポーツを紹介して欲しい。
  + 大会で必要な診断書を書いてもらうのに大変苦労した。
  + クラス分け資格取得者が増えることを望む。
  + 眼の不安を解消できる支援があるとありがたい。

視覚障がい者スポーツの競技人口増加のためにしている工夫、視覚障がい者スポーツが発展していくために必要と感じるもの、その他全般的なフリーコメントが得られた（表4－6）。

表4：競技人口増加のためにしている工夫（A-Q9）

* 啓発用DVDを作成し、理解、啓発に努めている。教育相談や生活相談を全国各地で行い、若手選手の発掘に努めている。
* 協会の会報を盲学校や関係機関へ送付している。しかし、直接的に競技人口の増加につながるとは考えていない。今後は眼科医との連携が不可欠になる。
* ホームページの作成、メディアを通じての広報、審判員指導員向け講習会、初心者向け講習会の実施。
* 盲学校や視覚障がい者施設等へ競技の紹介や、スポーツイベント等での競技体験の実施。大会や講習会での競技体験会の実施
* 他競技の選手の体力向上にパワーリフティング（ウェイト）を役立たせていただき、その中でパワーリフティングを競技としてやってみたいという方に、パワーリフティング参加を呼びかけている。

表5：発展していくために必要と感じるもの（A-Q10）

* 視覚障がい者への情報提供、練習場所の確保、視覚的サポートの充実、経済面での支援、指導者育成。
* 成功した選手の出現。国のサポート。
* 社会的認知度を高めること。そのためにはさらなるPR活動が必要。
* 一般校へ通っている視覚障がいの生徒、父兄へのスポーツ紹介や体験の機会を増やす。
* 教員へのスポーツ研修や地域スポーツクラブへのスポーツ紹介を行い、継続してスポーツ活動を行える環境とする。
* 視覚障がい者では、65歳以上が7割を超えている現状で数の少ない若者だけをスポーツの対象とするのではなく、高齢者でも足り組みやすい環境を整え視覚障がい者スポーツ全体の裾野を広げていくことによって生涯スポーツから競技スポーツまで幅広いスポーツ実践を勧めて欲しい。
* コーチの資質や付添い者の充実。
* 競技団体と施設等の連携。

表6：その他フリーコメント（A-Q11）

* 競技別の適正なクラス分け、カテゴリー分けの検討に眼科医からの助言があるとよい。
* 視覚障がいについては、身体面では健常者と同じようにトレーニングできるので、集中強化をして、複数のメダルを獲得する選手を養成することが可能である。人材発掘を進めたい。
* コーチや審判等の晴眼者に、視覚障がい者の見え方を知ってもらう必要性があると感じている。
* 視覚障がいの競技団体での横の連携は必須になると思う。
* 視覚障がい者の方から参加申し込みがあった時に、指導者が不安無く関わっていける支援体制があるとよい。

(2)障スポセンター

116センター中68団体（58.6％）から回答が得られた。平成24年度の各障スポセンターを利用した視覚障がい者の利用形態については、「団体利用」がもっとも多く、「教室参加」、「個人利用」、「大会参加」と続いた（図5）。

図5：視覚障がい者の利用形態（B-Q3）

平成24年度の各障スポセンターで視覚障がい者が行ったスポーツを利用人数が多いと思われるもの上位5種目について回答を得た（図6）。上位5つを1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点に換算し、高得点の順に選択肢を並べた。その結果、「STT」、「水泳」、「テニス」、「陸上」、「フロアバレーボール」の順に多かった。「サッカー」、「柔道」、「アルペンスキー」、「クロスカントリースキー」は回答が皆無だった。

図6：スポーツごとの利用人数（B-Q4）

※　その他…トレーニング、ストレッチ、ダンス、フライングディスクが多数を占めていた。

平成24年度に各障スポセンターにおいて視覚障がい者が対象に含まれる大会、教室などを開催された場合、その名称、他の受講対象障がい、年間開催回数、参加者のうち視覚障がい者の参加数（年間のべ人数）について回答を得た（表7）。結果は、日本眼科医会ホームページのロービジョンケア施設検索ページ（http://www.gankaikai.or.jp/lowvision/）を参照に、各障スポセンターが所在する場所を地域ごとに分けて集計を行った。各地域でもっとも大会開催されているスポーツは「STT」であり、「水泳」、「陸上」、「ブラインドテニス」、「グランドソフトボール」、「フランイングディスク」も全国的に大会、練習、教室が開かれていた。

表7：平成24年度に視覚障がい者が参加している大会や教室の開催について（B-Q5）

北海道・東北地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| STT | 2 | 72 | 無 |
| 陸上 | 2 | 130 | 有 |
| グランドソフトボール | 1 | 90 | 無 |
| ブラインドテニス | 1 | 20 | 無 |

練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| STT | 10 | 12.8 | 無 |
| 体操・トレーニング | 14 | 9 | 無 |
| ブラインドテニス | 6 | 4 | 無 |
| グランドソフトボール | 1 | 6 | 無 |

関東地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| ゴルフ | 11 | 2 | 有 |
| 多種目スポーツ大会 | 3 | 11 | 有 |
| STT | 2 | 72.5 | 無 |
| 水泳 | 2 | 6.5 | 有 |
| 陸上 | 1 | 4 | 有 |

　練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 体操・トレーニング | 85 | 0.8 | 有 |
| 水泳 | 75 | 1.4 | 有 |
| スポーツ体験 | 29 | 3.7 | 有 |
| STT | 18 | 8.5 | 無 |
| ノルディックウォーキング | 12 | 0.5 | 有 |
| ブラインドテニス | 8 | 8.25 | 無 |
| フライングディスク | 3 | 2.66 | 有 |
| フロアバレーボール | 1 | 6 | 無 |

信越・北陸地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| STT | 3 | 9 | 無 |
| 水泳 | 1 | 4 | 有 |

　練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 水中運動 | 12 | 1 | 有 |
| フライングディスク | 6 | 12 | 有 |

東海地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| STT | 3 | 30 | 無 |
| 陸上 | 2 | 28.5 | 有 |
| 水泳 | 2 | 13.5 | 有 |
| 多種目スポーツ大会 | 1 | 3 | 有 |
| グランドソフトボール | 1 | 138 | 無 |
| フライングディスク | 1 | 2 | 有 |

練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 体操・トレーニング | 85 | 0.8 | 有 |
| 水泳 | 75 | 1.4 | 有 |
| スポーツ体験 | 29 | 3.7 | 有 |
| STT | 18 | 8.5 | 無 |
| ノルディックウォーキング | 12 | 0.5 | 有 |
| ブラインドテニス | 8 | 8.25 | 無 |
| フライングディスク | 3 | 2.66 | 有 |
| フロアバレーボール | 1 | 6 | 有 |

近畿地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 水泳 | 2 | 2 | 有 |
| STT | 2 | 12.5 | 無 |
| フライングディスク | 2 | 27.5 | 有 |
| 多種目スポーツ大会 | 1 | 7 | 有 |
| 陸上 | 1 | 8 | 有 |

練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 体操、ストレス等 | 135 | 1.72 | 有 |
| スポーツ体験 | 108 | 0.4 | 有 |
| 水泳 | 87 | 1.6 | 有 |
| 水中運動 | 48 | 0.5 | 有 |
| アウトドア活動 | 24 | 0.83 | 有 |
| 陸上 | 14 | 12.1 | 有 |
| フライングディスク | 13 | 2.7 | 有 |
| ボッチャ | 12 | 1 | 有 |
| ボウリング | 1 | 4 | 無 |
| タンデム自転車 | 1 | 17 | 無 |

中国地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| STT | 4 | 15.5 | 無 |
| フライングディスク | 2 | 3.0 | 有 |
| フロアバレーボール | 1 | 90.0 | 無 |
| 水泳 | 1 | 2.0 | 有 |
| 陸上 | 1 | 21.0 | 有 |
| ゴルフ | 1 | 2.0 | 有 |
| ボッチャ | 1 | 4.0 | 有 |

　練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 体操 | 58 | 0.9 | 有 |
| 水泳 | 32 | 0.6 | 有 |
| 水中運動 | 31 | 2.2 | 有 |
| 陸上 | 18 | 0.4 | 有 |
| STT | 17 | 8.0 | 無 |
| テニス | 11 | 11.3 | 無 |
| フロアバレーボール | 2 | 15.0 | 無 |

四国地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 多種目スポーツ大会 | 3 | 8.3 | 有 |
| STT | 1 | 4 | 無 |

練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 水泳 | 15 | 1.2 | 有 |
| 体操 | 12 | 6.0 | 有 |
| スポーツ体験 | 5 | 2.0 | 有 |
| クライミング | 4 | 1.8 | 有 |
| カヌー | 2 | 1.5 | 有 |
| サイクリング | 1 | 5.0 | 有 |

九州・沖縄地方

　大会

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| STT | 3 | 42.7 | 無 |
| 水泳 | 2 | 4.0 | 有 |
| フライングディスク | 1 | 2.0 | 有 |

　練習や教室

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | 開催回数（回） | 視覚障がい者  平均参加人数　（年間のべ人数）（人） | 他障がい者の参加 |
| 水泳 | 100 | 0.8 | 有 |
| フライングディスク | 24 | 1.0 | 有 |
| リフレッシュ教室 | 20 | 20.6 | 有 |

※　沖縄地方からは回答なし。

教室参加など、各障スポセンターを通じて知り合った仲間同士でつくるような各障スポセンターが公認している視覚障がい者を含むクラブがあれば、クラブ名称、スポーツ名、クラブ人数、そのうちの視覚障がい者人数について回答を得た（表8）。

表8：クラブ活動実態（B-Q6）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| スポーツ名 | クラブ数 | クラブ人数（人） | 視覚障がい者人数（人） | クラブ人数内の　　視覚障がい者の　割合（％） |
| STT | 17 | 393 | 258 | 65.7 |
| ブラインドテニス | 10 | 121 | 86 | 71.1 |
| フロアバレーボール | 9 | 107 | 84 | 78.5 |
| 水泳 | 5 | 106 | 21 | 19.8 |
| フライングディスク | 4 | 100 | 14 | 14.0 |
| 社交ダンス | 4 | 49 | 39 | 79.6 |
| 陸上 | 3 | 99 | 64 | 64.7 |
| スルーネットピンポン | 2 | 41 | 26 | 63.4 |
| 体操 | 2 | 122 | 24 | 19.7 |
| グランドソフトボール | 1 | 20 | 20 | 100 |
| 柔道 | 1 | 18 | 7 | 38.9 |
| クライミング | 1 | 8 | 6 | 75.0 |
| ヨガ | 1 | 15 | 10 | 66.7 |
| 太極拳 | 1 | 18 | 3 | 16.7 |
| 合気道 | 1 | 4 | 3 | 75.0 |
| その他 | 8 | 104 | 17 | 16.3 |

視覚障がい者の各障スポセンターへの利用動機について、該当する選択肢を上位3つまで選択回答してもらった。上位3つを1位3点、2位2点、3位1点に換算し、高得点の順に選択肢を並べたところ、「友人の紹介」、「家族の紹介」、「盲学校の紹介」の順に多かった（図7）

図7：利用動機（B-Q7）

※　その他…福祉団体、福祉施設などからの紹介も多い。

障スポセンターとして眼科医に望むことについては、「視覚障がい者スポーツの知識」、「視覚障がい者スポーツの広報」、「眼科的アドバイス」の順に多かった（図8）。

図8：眼科医に望むもの（複数回答可）（B-Q8）

※その他

* 福祉協会や障がい者スポーツの紹介をして欲しい。
* スポーツが健康維持・増進、生活向上につながることを伝えて欲しい。
* 当事者をスポーツへ導くような連携を考えていく必要がある。
* 医療から手を離れる時に、スポーツが出来ることを伝えて欲しい。

利用者から各障スポセンターを利用するにあたりいただいた意見を集めた（表9）。視覚障がい者スポーツの発展に必要なものについて回答を得た（表10）。最後に、全般的なフリーコメントを得た（表11）。

表9：利用者から各障スポセンターを利用するにあたりいただいた意見について（B-Q9）

|  |  |
| --- | --- |
|  | 意見 |
| 施設設備関連 | * 音声案内、点字案内の整備と充実。 * 点字ブロックの整備。 * 盲導犬の待機場所やトイレの確保。 * 改修後、暗くなった。 * 空調の整備。 * トイレが分かりづらい。 * 音声パソコンの設置をして欲しい。 * 下駄箱に入れた靴の場所を変えないで欲しい。 |
| 用具、備品関連 | * 用具の常設を望む。 * 球技のボールを寄付して欲しい。 * ブラインドテニス用にエンドラインが突起していて助かる反面、車イスの人から苦情もある。 * 備品の配置変更をした時には教えて欲しい。 * 用具が古い。 * クライミングの壁を高くして欲しい。 |
| 交通手段関連 | * 送迎ボランティアを紹介して欲しい。 * 道路のチャイム音量を大きく。 * 日没時間を考慮した運営。 * 市営バス、送迎バスの増加。 * 点字ブロックの近くに車が駐車している。 |
| スタッフ関連 | * 常駐のスタッフが必要。 * 伴走者の養成と紹介をして欲しい。 * プール利用時に監視員にからかわれ嫌。 * 声かけをしてもらって助かる。 * 大会時にセンターとして介助ボランティアを雇って欲しい。 * STTの相手をしてくれるスタッフを同一人物にして欲しい。ラリーのリズムが狂うため。 * 指導をして欲しい。 |
| 広報関連 | * 大会告示や催事がある時に、ポスターだけでは分かりづらい。口頭で教えて欲しい。 * 教室申し込みを電話でも受け付けて欲しい。 * ホームページの音声対応不備への苦情 |
| その他 | * スポーツの種類を増やして欲しい。 |

表10：視覚障がい者スポーツの発展に必要なもの（B-Q10）

|  |  |
| --- | --- |
|  | 意見 |
| 施設設備関連 | * 安全にスポーツができる環境の整備。 |
| 用具備品関連 | * 用具の開発。 * 用具の低価格化。 |
| 交通手段関連 | * 送迎ボランティアの充実 * 施設へ行くまでの手段を簡単にする。 * 施設が公共交通機関で行けるところにあること。 |
| スタッフ関連 | * 支援スタッフ、ボランティア、指導者の育成と増員。 * ガイドヘルパーの増員。 |
| 広報関連 | * 視覚障がい者が必要とする情報が簡単に手に入るための環境整備。 * 有名アスリートやプロスポーツ選手からの支援や宣伝。 * 市区町村レベルでの広報と、施設利用の促進を図る。 * 健常者に遠慮が見られる。健常者への広報も必要。 |
| その他 | * 他団体、福祉協会などと連携してスポーツ事業を開催する。 * 視覚障がい者自身のスポーツの理解。 * 眼科医や関係者のスポーツの理解。 * 若い選手の育成。 |

表11：その他のフリーコメント（B-Q11）

・助成金の充実が必要。

・クラス分けをかかりつけの眼科で出来るとよい。

・乗馬（引き馬）は好評を得ている。

・年少時期からのスポーツ体験が必要。

・支援体制がしっかりしていれば、視覚障がい者はほぼ一般の選手同様にスポーツが楽しめる。

(3) 盲学校

74校中41校（57.1％）から回答が得られた。各校の体育の授業で実施しているスポーツについては、「STT」がもっとも多く、「陸上競技」、「水泳」がこれに続いた（図9）。

図9：体育の授業で実施しているスポーツ（複数回答可）（C-Q3）

※　その他…器械運動9、ダンス8（件）

体育の授業で実施しているスポーツの頻度に関して、一回あたりの授業時間はすべて50分授業であり、中学校、高等学校と通して平均回数2.60～2.86時間／週だった（表12）。

表12：授業で実施しているスポーツの頻度（C-Q4）

|  |  |
| --- | --- |
|  | 平均回数（回）／週 |
| 中1 | 2.71 |
| 中2 | 2.72 |
| 中3 | 2.72 |
| 高1 | 2.86 |
| 高2 | 2.85 |
| 高3 | 2.60 |

クラブ活動で実施しているスポーツについて、中学校、高等学校ともに「STT」がもっとも多く、「フロアバレーボール」と「グランドソフトボール」がそれぞれ3位以内に入っていた（図10）。

図10：クラブ活動で実施しているスポーツ（C-Q5）

1. 中学校

※　その他…ブラインドテニス3

1. 高等学校

　　クラブ活動の具体的状況については、５クラブ以内のクラブ活動がほとんどであった。クラブとしても「STT」が最も多く、「グランドソフトボール」「フロアバレーボール」「陸上競技」を合わせて大半を占めていた。１回平均1.5時間の活動を週に２〜３回程度行っていて、１クラブに平均８人所属していた。活動場所はほとんどが校内で、目標大会は「地域の大会」が一番多く、ついで「学校との交流大会」「各スポーツの全国大会」「全国障害者スポーツ大会」などの国内大会が多かった。国際大会を目指している例は少なかった。

図11：盲学校クラブ活動の種目数（C-Q6）

図12：盲学校クラブ活動の種目 (C-Q6)

表13：クラブ活動状況 (C-Q6)

|  |  |
| --- | --- |
| 活動頻度 | 週2.58回　（回答率88.5%；131/148）  他、大会前３か月、シーズン限定、不定期、等の回答あり |
| １回の活動時間 | 1.50時間　（回答率100%；148/148） |
| 生徒数 | 8.12人　（回答率95.3%；141/148） |

図13：クラブ活動場所 (C-Q6)

図14：目標とする大会 (C-Q6)

表14：体育の授業での問題点（C-Q7）

|  |  |
| --- | --- |
|  | 問題点 |
| 生徒（選手） | * 生徒数が少なく、団体競技が難しい。競い合う喜びを味合わせることが出来ない。 * 重複障がいが増えている。そのため、みんな同レベルで競技することが難しい。 * 眼疾患による運動制限がある。 |
| 教員（指導者） | * 視覚障がいへの理解度が不揃い。 * 高齢化してきている。 * 視覚障がい者スポーツの理解度に差がある。 * 教員数が足りない。体育科意外の教員の手を借りている。 * 障がい者スポーツを研修する場が少ない。 * 転勤が多く、専門性を保つのが難しい。 * 伴走できるだけの体力維持。 * 武道の指導者がいない。 |
| スポーツ施設 | * 道場が無い。毎回畳を手作業で敷いて、片付けている。 * グランド、体育館、プールなど活動の場が狭い。 * 特別な用具を必要とするスポーツが多く、また用具の収納場所も無い。 * グランドが無い。プールが無い。 |
| 時間 | * 事務的作業に終われ、運動に費やす時間が取れない。 * 基本的運動技能を身につけるまでの時間がかかる。 |
| 資金 | * 用具を揃える、修理する、買い替えるための予算が無い。 * 消耗品は不足していくばかり。 * 視覚障がい者スポーツの用具は高い。 |
| 関連情報 | * 競技規則や指導法を学ぶ機会がない。情報も無い。 * 他校の情報を知りたい。 |
| その他 | * 家庭での運動が少ない。 * 教員が少なくルール継承が出来ない。 |

表15：クラブ活動の問題点（C-Q8）

|  |  |
| --- | --- |
|  | 問題点 |
| 生徒（選手） | * 生徒数が少なくチームを組めない。競争心が保てない。本来のルールでできない。 * 重複障がいの生徒が増えて、スポーツ活動できる生徒が少ない。 * 早く帰さないといけないので、活動が出来ない。 * １人で複数種目を掛け持っていることが多く、1種目を専門的に行うことが厳しい。 |
| 教員（指導者） | * 放課後は学校の会議と重なることが多く、指導の時間が限られる。 * 指導できる教員が少ない。専門的知識を持った教員が少ない。 * 教員の中でもクラブ活動に対する理解に差がある。 * 体育の教師だけでは指導しきれない。 |
| スポーツ施設 | * グランド、体育館、プールなど活動の場が狭い。 * 特別な用具を必要とするスポーツが多く、また用具の収納場所も無い。 * 放課後行事と重なって体育館が使えないことが多い。 * グランドが無い。プールが無い。 |
| 時間 | * 寄宿舎の生活時間に合わせると、時間が取れない。 * 早い時間に帰そうと思うと1時間ぐらいしか活動できない。 * 金土日には、遠方の生徒達が帰省のためいなくなるので、活動が出来なくなる。 |
| 資金 | * 用具を揃える、修理する、買い替えるための予算が無い。 * 消耗品は不足していくばかり。 * 視覚障がい者スポーツの用具は高い。 * 遠征費が問題となる生徒もいる。 * ボール1個が買えない年もある。 |
| 関連情報 | * 競技規則や指導法を学ぶ機会がない。 * 大会情報が欲しい。案内を配布して欲しい。 * 旅費規程のため引率者に限りが出る。 |
| その他 | * 家庭での運動が少ない。 * 教員が少なくルール継承が出来ない。 |

図15：他施設や他団体との連携について（C-Q9）

※「足りている」と回答した学校のフリーコメント

* OBや社会人チームが協力的
* 他団体の練習会等に適度に参加できている。

※「不足している」と回答した学校のフリーコメント

* 周辺施設を利用したいが交通アクセスが悪く難しい。
* 時間、環境、引率などを考えると連携は無理。
* 県内に1校しか無く練習試合が出来ない。
* 中学校と高校の間では情報交換しているが、他施設との連携は取れていない。
* 他の盲学校との情報交換はしているが、社会人団体との連携は始めたばかり。

図12：眼科医に望むもの（C-Q10）

※フリーコメント

* 眼疾患と運動制限の程度について教えて欲しい。
* 診断書やクラス分けの公認ドクターが遠方にいるため、必要時にすぐに診断してもらえず苦労する。

表15：視覚障がい者スポーツの競技人口増加のための工夫（C-Q11）

* 社会人団体に校舎やグランドを提供している。
* 社会人なってからも続けられるスポーツの提供。
* 体育の授業の中で、いくつも体験できるようにしている。
* 大会参加を積極的に促している。
* 社会人での指導と、学校授業での指導内容に共通理解が必要。学校の先に社会人での活動があるように連携が取れるとよい。
* 社会人団体との合同練習。
* 小学校のうちから親しみが持てるようにルールを工夫して取り組んでいる。
* 希望するスポーツをやっている施設を紹介したり、遠方の場合は移動支援サービスを紹介している。

表16：視覚障がい者スポーツが発展していくために必要と感じるもの（C-Q12）

* 各家庭レベルで行えるスポーツの提示。
* 当事者がスポーツに関わりたいと思う意欲の育成。
* 指導者の増員、資質向上。
* 眼科関係者の積極的関与、理解促進。
* 障がい者だけでなく、一般の人にも体験してもらえる機会を多く作る。
* 一般の人と同じフィールドにたてるスポーツの開発。
* 小さい頃からスポーツに触れることが出来る環境整備。
* 広報活動の充実。メデイアをさらに使う。
* 社会人になってからも続けられるように環境を整える。
* 情報提供ネットワークの構築
* スポーツをすることの付加価値。

表17：その他フリーコメント（C-Q13）

* 障がい者スポーツ全般に対する助成金の拡大が必要。
* スポーツしたいと思っている当事者の参加を増やしていく仕掛けが必要。

(4)施設

100施設中51施設（51.0％）から回答が得られた。日課としているスポーツクラブの有無に関して、「ある」と回答した施設が39％、「ない」と回答した施設が61％だった（図13）。スポーツの種類では、「STT」と「ウォーキング」が上位の2種目であり、10施設以上から回答があった（図14）。

図13：日課としているスポーツプログラムの有無（D-Q3）

図14：日課スポーツプログラムの種類（D-Q4-1）

※その他…フライングディスク5（件）

日課の中で取り組んでいる主な実施別プログラムでは、全体的に活動頻度は週1回以上から年1回まで大きな幅があった（表18）。活動場所では、各スポーツ種目の特徴に応じる傾向がうかがえた。活動目的では、主に「体力維持・向上」、「健康維持・増進」、「交流・仲間づくり」が多かった。

表18：日課の中で取り組んでいる主な実施スポーツ別ブログラムの傾向（D-Q4-2）

STT

16プログラム内

平均活動時間：2.29時間/回

平均参加人数：12.7人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 2 |
| 月に数回 | 4 |
| 月１回 | 5 |
| 年に数回 | 3 |
| 年１回 | 2 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 10 |
| 公共スポーツ施設 | 5 |
| 障がい者スポーツセンター | 1 |
| 学校開放の利用 | 1 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 体力維持・向上 | 8 |
| 健康維持・増進 | 7 |
| 交流・仲間づくり | 7 |
| 大会参加のため | 4 |
| 気分転換 | 1 |
| 娯楽 | 1 |
| 競技スポーツとして | 1 |
| その他 | 4 |

ウォーキング

10プログラム内

　 平均活動時間：1.38時間/回

　 平均参加人数：10.3人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 5 |
| 月に数回 | 3 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 1 |
| 年１回 | 1 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 公園 | 6 |
| 施設内 | 4 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 学校開放の利用 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 5 |

その他…公道

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 体力維持・向上 | 7 |
| 健康維持・増進 | 7 |
| 交流・仲間づくり | 4 |
| 気分転換 | 3 |
| 大会参加のため | 1 |
| 娯楽 | 0 |
| 競技スポーツとして | 0 |
| その他 | 1 |

フロアバレーボール

4プログラム内

　 平均活動時間：1.44時間/回

　 平均参加人数：5.63人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 2 |
| 月に数回 | 0 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 2 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 4 |
| 公共スポーツ施設 | 0 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 学校開放の利用 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 交流・仲間づくり | 2 |
| 体力維持・増進 | 1 |
| 健康維持・増進 | 0 |
| 大会参加のため | 0 |
| 気分転換 | 0 |
| 娯楽 | 0 |
| 競技スポーツとして | 0 |
| その他 | 2 |

グランドソフトボール

4プログラム内

　 平均活動時間：2.75時間/回

　 平均参加人数：13.0人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 0 |
| 月に数回 | 2 |
| 月１回 | 1 |
| 年に数回 | 1 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 公共スポーツ施設 | 2 |
| 施設内 | 1 |
| 障がい者スポーツセンター | 1 |
| 学校開放の利用 | 1 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 健康維持・増進 | 2 |
| 交流・仲間づくり | 2 |
| 体力維持・向上 | 1 |
| 競技スポーツとして | 1 |
| 大会参加のため | 1 |
| 娯楽 | 0 |
| 気分転換 | 0 |
| その他 | 1 |

ゴールボール

4プログラム内

　 平均活動時間：1.10時間/回

　 平均参加人数：5.63人

活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 1 |
| 月に数回 | 0 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 3 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 4 |
| 公共スポーツ施設 | 0 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 学校開放の利用 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 体力維持・向上 | 2 |
| 健康維持・増進 | 1 |
| 交流・仲間づくり | 1 |
| 大会参加のため | 1 |
| 気分転換 | 0 |
| 娯楽 | 0 |
| 競技スポーツとして | 0 |
| その他 | 3 |

その他…競技の紹介として

陸上競技

2プログラム内

　 平均活動時間：1.50時間/回

　 平均参加人数：6.00人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 0 |
| 月に数回 | 0 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 2 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 1 |
| 公園 | 1 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 学校開放の利用 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公共スポーツ施設 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 体力維持・向上 | 1 |
| 大会参加のため | 1 |
| 競技スポーツとして | 1 |
| 健康維持・増進 | 0 |
| 気分転換 | 0 |
| 交流・仲間づくり | 0 |
| 娯楽 | 0 |
| その他 | 2 |

水泳

4プログラム内

　 平均活動時間：0.85時間/回

　 平均参加人数：5.88人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 1 |
| 月に数回 | 1 |
| 月１回 | 1 |
| 年に数回 | 1 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 2 |
| 公共スポーツ施設 | 1 |
| 障がい者スポーツセンター | 1 |
| 学校開放の利用 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 健康維持・増進 | 2 |
| 体力維持・向上 | 1 |
| 交流・仲間づくり | 1 |
| 大会参加のため | 0 |
| 気分転換 | 0 |
| 娯楽 | 0 |
| 競技スポーツとして | 0 |
| その他 | 1 |

日課後に活動しているスポーツクラブの有無に関して、「ある」と回答した施設が26％、「ない」と回答した施設が74％だった（図15）。スポーツの種類では、「STT」、「グランドソフトボール」、「フロアバレー」の順で上位3位を占めた（図16）。

図15：日課後に活動しているスポーツクラブの有無（D-Q5）

表16：日課後のスポーツクラブの種類（複数回答可）（D-Q6-1）

日課後に活動している主なスポーツクラブの傾向として、日課の中で取り組んでいるスポーツプログラムと比べ、同じ種目であっても活動頻度が増え、活動目的に「大会参加のため」と「競技スポーツとして」という回答が多かった（表17）。

表17：主なスポーツクラブの傾向（D-Q6-2）

STT

対象7クラブ

平均活動時間：2.57時間/回

平均参加人数：7.71人

活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 4 |
| 月に数回 | 3 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 0 |
| 年１回 | 0 |

活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 6 |
| 障がい者スポーツセンター | 1 |
| 学校開放の利用 | 1 |
| 公共スポーツ施設 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 1 |

活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 大会参加のため | 5 |
| 健康維持・増進 | 5 |
| 交流・仲間づくり | 5 |
| 体力維持・向上 | 4 |
| 競技スポーツとして | 3 |
| 娯楽 | 2 |
| 気分転換 | 1 |
| その他 | 0 |

グランドソフトボール

対象5クラブ

　 平均活動時間：2.3時間/回

　 平均参加人数：11.6人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 2 |
| 月に数回 | 2 |
| 月１回 | 1 |
| 年に数回 | 0 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 学校開放の利用 | 4 |
| 施設内 | 1 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 公共スポーツ施設 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 大会参加のため | 4 |
| 健康維持・増進 | 3 |
| 交流・仲間づくり | 3 |
| 体力維持・向上 | 2 |
| 競技スポーツとして | 2 |
| 娯楽 | 1 |
| 気分転換 | 1 |
| その他 | 0 |

フロアバレーボール

対象4クラブ

　 平均活動時間：2.0時間/回

　 平均参加人数：9.0人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 2 |
| 月に数回 | 2 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 0 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 3 |
| 学校開放の利用 | 1 |
| 障がい者スポーツセンター | 1 |
| 公共スポーツ施設 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 大会参加のため | 4 |
| 健康維持・増進 | 3 |
| 交流・仲間づくり | 3 |
| 体力維持・向上 | 3 |
| 競技スポーツとして | 3 |
| 娯楽 | 2 |
| 気分転換 | 2 |
| その他 | 0 |

陸上競技

対象3クラブ

　 平均活動時間：1.3時間/回

　 平均参加人数：9.7人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 2 |
| 月に数回 | 1 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 0 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 2 |
| 公共スポーツ施設 | 2 |
| 公園 | 1 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 大会参加のため | 3 |
| 健康維持・増進 | 3 |
| 体力維持・向上 | 3 |
| 気分転換 | 2 |
| 競技スポーツとして | 2 |
| 娯楽 | 1 |
| 交流・仲間づくり | 1 |
| その他 | 0 |

ゴールボール

対象2クラブ

　 平均活動時間：2.0時間/回

　 平均参加人数：4人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 1 |
| 月に数回 | 1 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 0 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 2 |
| 学校開放の利用 | 0 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 公共スポーツ施設 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 大会参加のため | 2 |
| 健康維持・増進 | 2 |
| 交流・仲間づくり | 2 |
| 体力維持・向上 | 2 |
| 気分転換 | 2 |
| 娯楽 | 2 |
| 競技スポーツとして | 1 |
| その他 | 0 |

水泳

対象2クラブ

　 平均活動時間：2.0時間/回

　 平均参加人数：8.5人

　活動頻度

|  |  |
| --- | --- |
| 頻度 | 回答数 |
| 週１回以上 | 1 |
| 月に数回 | 1 |
| 月１回 | 0 |
| 年に数回 | 0 |
| 年１回 | 0 |

　活動場所（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 場所 | 回答数 |
| 施設内 | 1 |
| 公共スポーツ施設 | 1 |
| 障がい者スポーツセンター | 0 |
| 学校開放の利用 | 0 |
| 民間スポーツ施設 | 0 |
| 公園 | 0 |
| その他 | 0 |

　活動目的（複数回答可）

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 回答数 |
| 体力維持・向上 | 2 |
| 健康維持・増進 | 2 |
| 交流・仲間づくり | 1 |
| 体力維持・向上 | 1 |
| 競技スポーツとして | 1 |
| 娯楽 | 1 |
| 気分転換 | 0 |
| その他 | 0 |

競技スポーツとして活動しているスポーツの目標とする大会では、日課で実施しているスポーツ、クラブ活動ともに「全国障がい者スポーツ大会」が多かった（表18）。

表18：競技スポーツとして活動しているスポーツの目標とする大会（D-Q7）

　[日課で実施しているスポーツ]

○STT

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 1 |
| 国際大会 | 1 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 3 |
| 各スポーツの全国大会 | 2 |
| 地域の大会 | 2 |
| 施設との交流大会 | 0 |
| その他の大会 | 1 |

○グランドソフトボール

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 0 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 2 |
| 各スポーツの全国大会 | 1 |
| 地域の大会 | 1 |
| 施設との交流大会 | 0 |
| その他の大会 | 0 |

○ゴールボール

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 0 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 0 |
| 各スポーツの全国大会 | 1 |
| 地域の大会 | 2 |
| 施設との交流大会 | 1 |
| その他の大会 | 0 |

○フロアバレーボール

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 0 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 0 |
| 各スポーツの全国大会 | 1 |
| 地域の大会 | 1 |
| 施設との交流大会 | 0 |
| その他の大会 | 0 |

[クラブ活動]

* STT

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 0 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 4 |
| 各スポーツの全国大会 | 3 |
| 地域の大会 | 4 |
| 施設との交流大会 | 1 |
| その他の大会 | 0 |

* グランドソフトボール

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 0 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 2 |
| 各スポーツの全国大会 | 1 |
| 地域の大会 | 1 |
| 施設との交流大会 | 0 |
| その他の大会 | 0 |

* フロアバレーボール

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 0 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 1 |
| 各スポーツの全国大会 | 2 |
| 地域の大会 | 3 |
| 施設との交流大会 | 1 |
| その他の大会 | 0 |

* 水泳

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 1 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 1 |
| 各スポーツの全国大会 | 2 |
| 地域の大会 | 3 |
| 施設との交流大会 | 1 |
| その他の大会 | 0 |

* ボウリング

|  |  |
| --- | --- |
|  | 回答数 |
| パラリンピック | 1 |
| 国際大会 | 0 |
| 全国障がい者スポーツ大会 | 0 |
| 各スポーツの全国大会 | 1 |
| 地域の大会 | 1 |
| 施設との交流大会 | 0 |
| その他の大会 | 0 |

表19：スポーツ活動を実施する上での問題点（D-Q8）

|  |  |
| --- | --- |
|  | 問題点等 |
| 参加者（選手） | * 参加者が少ない。特に若い参加者が減っている（多数）。 * 重複障がいが増えて、個々への対応が難しい（多数）。 * 施設利用期間に限りがあり継続してスポーツできない。 |
| 職員（指導者） | * スポーツを専門にしている職員がいない。 * 2〜3年で異動になるので、継続したプログラムが組めない。 * 職員の数が減って、対応が難しい。 * 講習会への派遣はできているが、実際に指導となると難しい。 * スタッフ数に限りがあり、ボランティアスタッフがいないと活動できない。 |
| スポーツ施設 | * １つの体育館で多種目をするために、準備と撤収が大変。 * スポーツを目的として視覚障がい者を集めるプログラムが無い。 * プールのコースが少ない。また、音を必要とする他団体とは同時に出来ないので、使用時間が限られ効率も悪い。 * スポーツ施設が隣接していて助かっている。 |
| 時間 | * 兼務であり、なかなか時間が取れない。 * 対外的な活動時間に制約が多い。 |
| 資金 | * 用具が特殊なため、メンテナンス等お金がかかる。 * 指導員がいないため外部招聘をしているので、教室を増やすたびに経費が増す。 * 会費や部費のみで活動をしているが、常に費用が不足している。 * 助成金の減少で、遠征費用が不足している。 |
| 関連情報 | コメントなし |
| その他 | * ボランティアが少ない。 * 2020東京パラリンピックで聖火ランナーを希望している選手がいる。 * STTは手軽にできるため参加者が多い。グランドソフトボールは選手が揃わない。 * スポーツをするための、移動手段や送迎などの整備が必要。スタッフの確保等も必要。 |

表20：その他フリーコメント（D-Q9）

* 晴眼者も一緒に楽しめる企画・環境づくりが大切。
* クライミングを取り入れようと調整中。
* マラソン大会ではボランティアの方に伴走をしてもらい、交流の場となっている。
* 視覚障がい者スポーツの振興という意味で、大会の開催を通じて普及に努めてきた。運営や審判は競技団体の協力で、出場者介助はボランティアにお願いしている。
* 利用者の大半が高齢者で、「生涯スポーツ」としての取り組みが中心。
* ゴールボールの最高年齢は73歳。高齢でも取り組めることを広めていきたい。
* 情報提供施設なので、スポーツは行っていない。

Ⅳ　考察

1. 競技団体

今回の調査結果より、従来から言われている選手不足のみならず、組織運営、選手強化の両面でコーチが不足していることが明らかになった。また、「団体事務所」、「強化事業費」、「海外遠征費」は充足している回答した競技団体もわずかにみられたが、ほとんどの競技団体では充足しておらず、「すべて足りていない」とコメントを寄せた競技団体もあった。組織としてのインフラ部分に不安材料を抱えている競技団体が多いとも言える。将来的には、選手数や選手の技術に注目をすると同時に、競技団体としての組織運営に最低限必要なインフラ強化も望まれる。例えば、健常者のコーチのみならず、引退後の視覚障がい者アスリートをより積極的にコーチとして招聘したり、ひとりのコーチが複数の競技団体を兼任して指導するシステムも考慮できるかもしれない。

競技団体への参加動機では「友人の紹介」が圧倒的に多かった。視覚から情報を得にくい選手にとって、友人はより貴重な情報源になっていることがうかがえる。「リハビリテーション施設で」という参加動機もわずかにみられたが、「眼科からの紹介」は皆無だった。今後は、単にリーフレットやパンフレット配布といった紙媒体での宣伝のみならず、視覚障がい者自身の動機付けとなるような紹介方法を検討していく必要がある。また、眼科医療関係者への視覚障がい者スポーツに関する周知の低さを少しでも改善できるように、眼科医療関係者への啓発にも今後は注力すべきであろう。

眼科医に望むものでは、「大会に必要な診断書作成」という回答が多かった。これは、国際大会レベルで必要となるMedical Diagnostics Form(以下、MDF)のことを指していると思われる。各種国際大会での国際クラス分け時に必要となる診断書だが、眼科医にはほとんど周知されていない。MDF記載は眼科医であれば誰でも可能であり、特別な資格は不要である。すべて英語で記入する必要があるため、対応に戸惑う眼科医もいるようだが、内容は極めてシンプルである。競技団体からのフリーコメントにも「診断書を書ける資格のある眼科医が必要」とあったが、選手が普段から通院している眼科主治医に依頼すればまったく問題ない。筆者らは最近、眼科医向けの雑誌内でMDF記載例を寄稿し、少しでも多くの眼科医にMDF作成について協力してもらえるように努めているところだが、今後も地域を問わず選手がMDF作成で困ることがないように眼科医へ向けて周知徹底を図っていきたい。

1. 障スポセンター

利用形態については、「個人利用」と「団体利用」で大差はなく、多くの目的で利用されていた。スポーツごとの利用人数では「STT」が圧倒的に多く、次いで「水泳」や「その他」に含まれる体操やストレッチが多かった。これらは障スポセンターに元々あるものを利用して出来るスポーツであり、利用者にとっても馴染みやすい種目ともいえる。また、特殊な道具を準備する必要がないので、コストパフォーマンスの面でもメリットが大きい。

大会や教室の開催については、各地域で大会や教室が開かれていることが分かったが、実施スポーツの種類と回数は、地域によって大きな違いがあった。交通手段や人口などの地域特性も大きな理由であると推測される。体操やストレッチは他の障がい者と同時に実施されており、単に身体を動かすだけではなく、他の障がい者やその介護者・家族との交流にもなり、視覚障がいについて理解を深めてもらい、障がい者スポーツにおける視覚障がい者スポーツを知ってもらえる良い機会になり得ると考えられた。

利用動機は「友人の紹介」がやはり多く、「家族の紹介」と合わせて半数を占めた。いわゆる口コミが一番の動機になっていることから、本人のみならず周囲の方々への広報も大切であることがわかる。実際にスポーツをやっている人がスポーツの素晴らしさを同じ障がいの仲間に伝えていくこともぜひ継続して欲しい。

眼科医に望むものとして、「視覚障がい者スポーツの知識・広報」に多くの回答があった。知識がなければ広報は出来ないので、多くの眼科医が視覚障がい者スポーツについての最低限の知識を持てるよう、障スポセンターの存在を含めて周知していく必要がある。

利用者からの意見では、特に施設設備関連で多くのフリーコメントが寄せられた。視覚障がい者にとって使いやすい、安全な施設環境を目指していく必要がある。交通手段についても意見が多かった。施設設備関連の問題は、障スポセンターに限った話ではなく、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けた大きな課題である。国や都のレベルでの対策が早急に待たれるところである。

1. 盲学校

体育授業とクラブ活動で実施しているスポーツでは、「STT」がいずれも最多であり、「フロアバレーボール」と「グランドソフトボール」が中学校、高等学校いずれにおいても3位以内にランクインした。盲学校では、授業やクラブ活動を通じて多種目のスポーツに触れる機会があり、今後盲学校をベースに視覚障がい者スポーツの発展を目指すのであれば、眼科医療関係者の専門的な介入が望まれる。

体育やクラブ活動での問題点では、生徒数の減少だけでなく教員についても多くのフリーコメントがあった。昨今、生徒の重複障がい児童の増加、視覚障がい単独児童の減少が特徴的である。このため、同一レベルでのスポーツ活動は徐々に難しくなってきている。教員の問題としては、人数の少なさ、行事の重複、転勤など学校としての課題の他に、視覚障がい者スポーツの理解度・指導レベルの違い、クラブ活動への理解、教員の体力など個人レベルの問題も多く挙げられた。生徒数のコントロールは難しいが、今後、学校や教員の問題については少しでも改善の余地があると思われる。

また、時間的な問題については盲学校に特徴的とも言える。寄宿舎の生活時間により部活動に制限が出ることや、土日祝の帰省によりまとまった活動時間が取れないなどである。関係者や家族の協力を得るための活動も必要になってくるであろう。家庭での運動が少ないというフリーコメントもあり、家族への学校での活動内容を知らせる手段も口頭や手紙だけではなく、メールや動画の使用も今後は検討していけるかもしれない。

他施設や他団体との連携については、「足りている」と「不足」という回答がほとんど同数であった。不足のフリーコメント中には、連携を始めたばかりという内容もあり、今後の連携強化への期待もあった。一方、時間・環境・引率の関係で連携は無理とのフリーコメントもあり、障スポセンターと同様に地域差があると思われた。「足りている」側のフリーコメントでは、OBの協力や社会人団体との連携をしているところが多く、盲学校同士だけではない連携がスポーツ継続の面からも望まれる。

眼科医に望むものとしては、他の関連機関とは異なり、「眼科的アドバイス」が多数を占めた。児童の成長過程での眼科的管理が求められていることが推測される。また、MDFを書いてもらうまで大変苦労したというフリーコメントも複数あり、眼科医への啓発活動は急務である。

1. 施設

日課としているスポーツプログラムがある施設は約40％、日課後に活動しているスポーツプログラムがある施設は約25％であった。今回は、視覚障がい者が通所している福祉施設が対象であり、中には情報提供施設も含まれていた。そのため、生活指導等を実施していない施設も対象に含まれていたため、実質的にはもっと高い割合でスポーツプログラムが日課内・後ともに提供されていた可能性がある。日課スポーツとしても、大半のスポーツは週１回のペースで実施されており、平均１時間以上のプログラムが組まれていた。施設における訓練プログラムの中でスポーツの占める割合が確立していることがわかった。スポーツの種類としては「STT」が最多であり、その他にも「フロアバレーボール」、「グランドソフトボール」、「ゴールボール」等の視覚障がい者スポーツが取り入れられていた。盲学校で主に行われているスポーツ種目とほとんど同じであり、今後、視覚障がい者スポーツを通した施設と盲学校同士の連携も考慮できるかもしれない。

目標とする大会では、「全国障がい者スポーツ大会」や「地域での大会」が多かった。スポーツ種目によっては、パラリンピック種目でないものもあるため、回答が偏った可能性は否めない。特に、「地域での大会」では、障スポセンターや盲学校が大会場となることが多いと考えられるが、福祉施設関係者が障スポセンター利用者や盲学校児童との交流の場として有効活用し、地域間での連携が深まるような活動が今後盛んになることが期待される。

スポーツ活動を実施する上での問題点として、福祉施設なので職員数に限りがあり、またスポーツ専門の職員が必ずしも在職しているわけではないという点が挙げられた。実際には、ボランティアや派遣講師に頼らざるを得ない状況がわかった。施設に限らず、障がい者スポーツ全般に当てはまる問題であるが、当事者以外の人材確保について今後は具体策を検討する必要がある。

Ⅴ. まとめ

2020年にオリンピック・パラリンピック東京大会開催が決定し、今こそ視覚障がい者スポーツをいろんな関係方面に認知してもらえる好機である。今回の調査を通して、各関係機関に共通して「選手・資金・用具・スタッフ不足」が問題であることを再認識することができた。また、眼科医療関係者からの協力体制がほとんど取れていない現状も改めて実証された。各関係機関の更なる積極的な活動が望まれるが、今後は横断的な連携を図りながら、より有機的に効率よくいろんな関係方面に視覚障がい者スポーツを啓発していくことが大切である。また、これまでほとんど皆無に等しかった眼科医療関係者の専門的知識を生かした選手へのアドバイスや新たな選手人材の発掘、広報等はこれまで以上に重要視されてくるであろう。今後、ロービジョンケアや視覚障がいリハビリテーションの一環として、特定のスポーツに偏ることなく視覚障がい者スポーツ全般を根付かせるよう関係者総動員で対策を練っていく必要がある。

謝辞

本調査を行うにあたり、日本障がい者スポーツ協会、国立障害者リハビリテーションセンター病院眼科・ロービジョン訓練スタッフ一同に多大なるご助言、ご支援をいただいたことに深謝いたします。また、本調査結果の一部は、平成26年度視覚障害者スポーツ情報交換会、第68回日本臨床眼科学会において発表した。

【参考URL】

日本障がい者スポーツ協会（JPC）　http://www.jsad.or.jp/

国際パラリンピック委員会（IPC）　http://www.paralympic.org/

国際視覚障がい者スポーツ連盟（IBSA）　http://www.ibsasport.org/